

毎日新聞

2007年(平成19年) 11月20日 火曜日

とうきょう ワイド 東京

26

写真を通して「東京」とは何かを考えようと、大文理学部社会学科の後藤範章教授のゼミと千葉大の環境デザイン研究室が20日から、世田谷区桜上水の日大文理学部百年記念館で作品展を開く。東京を共通の舞台にして社会学とデザインの各学問分野から見えてくるものを探る試みで、学生の目で切り取った巨大都市の一コマから江戸・東京の来歴と現代が浮かび上がる。

後藤ゼミは94年から「東京人」観察学会

「驚きや発見を感じて」

きょうから世田谷 日大と千葉大が写真展



東京宝塚ビル前を撮影した「宝塚と東京を結ぶレビュー」=『東京人』観察学会提供



湯島天満宮を撮影した「絵馬の縦列がけ！」=『東京人』観察学会提供

写真を通して「東京」とは何かを考えよう、大文理学部社会学科の後藤範章教授のゼミと千葉大の環境デザイン研究室が20日から、世田谷区桜上水の日大文理学部百年記念館で作品展を開く。東京を共通の舞台にして社会学とデザインの各学問分野から見えてくるものを探る試みで、学生の目で切り取った巨大都市の一コマから江戸・東京の来歴と現代が浮かび上がる。

後藤ゼミは94年から「東京人」観察学会

と称し、東京の街や人間を撮影した写真を基に討論しながら社会学の研究を続けており、作品展は13回目となる。今年は後藤教授が千葉大の清水忠男教授と知り合い、それでの研究に共通性があることが明らかになり、交流を深めて合同で展示

会を開くことになった。

後藤ゼミは「写真で語る『東京』の社会学07」

と題し、400字程度の脚注を添えた22点の作品

を展示する。東京宝塚劇場(千代田区)の写真に

は関西発の文化が東京には二工夫をして持ち込まれることがうかがえ、湯

島天満宮(文京区)の写真は全国からおびただし

い数の絵馬が掛けられる様子が分かる。

千葉大の研究室は「東京を感じる」と題し、複数の写真を18のテーマ

にまとめた作品を展出

、「東京の居場所」という

作品は、雑踏や喫煙所と

いった人の居場所の写真を組み合わせ、いろいろな目的にかなう一つのベ

ンチのデザインを導く経験が示されている。

後藤教授は「100人がいれば100人の東京像がある。どれが東京とい

うものはなく、そこが東京らしさ。何気ない風景

に隠されているものを市民とともに読み解いていきたい」と話し、ゼミ長の上野哲広さん(4年)も

「驚きや発見を感じてもういちど見直す機会になればいい」と呼びかけて

いる。作品展は29日まで。24日には後藤教授と清水

教授の対論もある。問い合わせは日大文理学部社会学科(03・5317・9

713)。【木村健二】

「東京とは何か」を考えよう